

## 第5回指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議

### 議事概要

日時：令和8年2月10日(火) 10:30-12:30

場所 ホテルウェルビューかごしま 桜島

指宿枕崎線指宿駅から枕崎駅までの区間における将来のあり方を検討する「指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議」について、第5回検討会議を開催したところであり、その議事概要は以下のとおり。

#### 1. 開会

#### 2. 冒頭挨拶 【鹿児島県総合政策部参事兼交通政策課長】

#### 3. 議題

##### ○ 実証事業の進捗状況について

事務局から説明

##### 【貨客混載実証事業】

- ・ 指宿駅にて、指宿市内の事業者が自社商品を定期列車に積載し、喜入駅まで運搬。駅に併設されている「ゆなべーす喜入」の職員が積み下ろし、同店舗にて販売する取組。
- ・ これまで試験的なトライアル輸送を複数回実施し、2月18日より本格実証を開始予定。参加事業者や商品を購入した方へのアンケートを予定しており、効果検証を行っていく予定。
- ・ なお、現在は指宿駅～喜入駅で実施しているが、将来的には指宿枕崎線(指宿～枕崎間)全体での展開を念頭に置いている。検討会議として指宿駅が対象区間であるが、「まずは今の実情から実施ができるか」という一歩目の観点から先行的に検証しているところ。

##### 【サイクルトレイン実証事業】

- ・ 1月31日、2月1日、臨時列車を計8便運行し、6コースのモニターツアーを実施。
- ・ これまでの議論の中で、駅から地域の各スポットまでの二次交通・移動手段がなかなか確保されていないのではないか、という意見があり、自転車の活用について焦点を当てたもの。鉄道に自転車を持ち込み、運行上の課題等について検証しているもの。
- ・ 50名以上のモニター・ガイドが参加し、概ね好評な感想を頂いており、

参加者のアンケートを詳しく集計分析し、効果検証を行っていく予定。

#### 【SNSによる情報発信】

- ・ サイクルトレインの運行に合わせ、著名な YouTuber に沿線の魅力的なスポットについて発信する動画を撮影。3月頃公開予定。また、地元業者へ Google ビジネスプロフィールの登録の推進に随時取り組んでおり、沿線地域における Google map の情報充実を図る。

#### 【駅のにぎわいづくり事業】

- ・ 鉄道が持つ「駅」という拠点としての存在に着目し、駅でのフリーWi-Fi・デジタルサイネージの実験的な導入などを進めているところ。併せてイベントを実施し、アンケート調査等による効果検証を行っていく予定。

(鹿児島県)

- ・ 各事業の実施後の気づきや振り返りを次年度の取組に繋げていく予定。

### ○ 検討調査事業の進捗状況について

(EYSC)

- ・ 指宿枕崎線が地域にもたらしている現在の社会・経済的価値、ならびに将来創出し得る価値を可視化・定量化することが検討調査事業において重要な論点であると認識しており、どのような方法で試算を進めているか、手法の概要を御説明させていただく。
- ・ 第4回の検討会議でもお示ししたが、運賃収入など従来から把握されてきた価値に加え、これまで十分に可視化されてこなかった社会的・経済的価値が、指宿枕崎線には存在すると考えられる。まず、現在有している価値を定量的に把握し、その上で実証事業や地域活性化施策の実施による「価値の増分」を推計する、という考え方を前回でお示ししたところ。併せて、価値を分野別に整理し、それぞれがどの主体に帰属するのかを明確化した上で、推計を行う方針を説明させて頂いた。
- ・ 現状、具体的には推計は段階的に実施しており、『①現在有する社会・経済的価値の推計』『②地域活性化施策実施による将来の価値増分の推計』という二段階構造で整理している。
- ・ 現在有する価値の推計では、分野ごとに鉄道の存在によって地域に生じている価値を洗い出し、統計値などの基準値と、地域活性化施策によって変動し得る「パラメータ値」を設定し、基本的には「基準値×パラメータ値」という形で試算を行う構造としている。パラメータ値の変動幅についてはにあたっては、住民アンケー

- ト結果も参照して設定している。
- ・ 将来価値の推計では、複数の地域活性化施策を組み合わせ実施したと仮定した場合に、パラメータがどの程度上昇するかを仮定し、価値の増加分を算出している。なお、実証事業を実施した場合には、その効果測定結果も活用し、将来的な変動幅を推計することとしている。
  - ・ 具体例として、鉄道の存在により移動利便性が向上し、住民の定住意欲が高まり、人口流出が抑制されることで地域内消費が維持・増加するという価値については、一定の仮定のもと、流出が防止されている沿線人口の年間消費支出に置き換えて金銭価値を試算している。
  - ・ このような方法を複数の価値項目について試算し、全体の社会経済的価値を積み上げる形で推計を進めている。

#### 4. 意見交換

##### (鹿児島県)

- ・ 意見交換を行うにあたって、これまでの当検討会議の議論の流れについて、改めて振り返りたい。
- ・ 第1回の検討会議では存廃論等の出口論ではなく、まずは地域や鉄道の可能性を最大限追求することに注力する方針を共有し、現在の路線活用の取組の深化、価値の評価、地域との関わりについて検討していくことを確認した。
- ・ 第2回検討会議では、開催したワークショップを踏まえ、鉄道を活かして地域を活性化するという発想を共通認識とし、鉄道は駅などの象徴的な存在や独自性がある、といった鉄道の価値についての意見が出された。また、実証事業や調査事業についても、今後検討していくことを確認した。
- ・ 第3回検討会議では、価値の可視化にあたっては、専門的な知見を持つコンサルタント業者への調査委託が必要として同意し、公募型プロポーザルを経て、現在伴走いただいているEY社に決定した。
- ・ 第4回では実証事業を実施する上で重視する点を協議し、持続可能性や、地域における回遊性、地域内及び外の人を巻き込んでいくという視点が必要、といったポイントを定めた。
- ・ 実証事業においてはJR九州社との調整のもとスモールスタートで実施し、調査事業による分析を実施中。令和8年度においても、実証事業の今後の内容、持続可能性について検証していくことを一定見込んでいる。
- ・ このように検討会議以前の従前からの取組や、検討会議における地域

との関わり・実証事業に取り組んでいるところであるが、改めて、鉄道が沿線地域にもたらす価値効果、あるいはどのような点を重視するか、お伺いしたい。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・ 実証事業について、スモールスタートという表現があったが、当社としても初めての試みをここまで実現できたのはこの場にいる関係者のおかげであり、改めて感謝申し上げる。
- ・ この協議においては 2024 年度に開始し、本年夏で 3 年目を迎える状況にある。昨年度、当検討会議の立ち上げの際に当社からお示した収支等の数値から大きな改善は見られず、現状のまま運営を継続することは非常に厳しい状況が続いているのは変わらない。
- ・ 今後、鉄道そのものの価値を高めていくことはもちろんのこと、沿線地域そのものの価値を上げていくということを意識して取り組んでいくことが必要ではないかと考えている。
- ・ 様々な分野ごとに価値を積み上げると EY 社から説明があったが、狭い幅に捕らわれず、いろいろな事をこの機会に取り組んでみるというのが非常に重要だと考える。
- ・ 当社として重視している「鉄道の安全性・定時性」という点が、鉄道の活用においてはネックになる部分もあるが、引き続きできることを一生懸命協力させていただきたい。

(指宿市)

- ・ 鉄道の価値を考えた時に、「地域にとってのノスタルジーとしての存在」といった意見や、先ほど御発言のあった「依然として厳しい経営状況が続いている」ことについて、地域が鉄道を日常的に使っていない現状があると思う。
- ・ 実証事業において鉄道の価値・可能性を高めるにあたって「持続可能性・再現性」を検証する際に、要した事業経費等、いわゆる財政的な問題を考慮すると、導かれた鉄道の価値が納得できるものでなければならぬ。
- ・ また、「将来の人材育成」についても絡めなければ、日常使いができていない現状において、鉄道の価値を高めることは現実的ではないと考える。
- ・ 財政的な部分を含めた再現性・持続可能性および、行政だけでない地域の人々の力を借りながら、価値を高めていくということがこの取組

みの答えとしてあるかと考える。

(枕崎市)

- ・ 本市の地域公共交通計画において社会基盤として明記しており、鉄道は市民の移動手段、特に高校生の通学手段として極めて重要な価値があるというのは、従前から申し上げている。
- ・ また、JRとして日本最南端を走る鉄道というのは唯一のブランドであり、全国から集客力があり、地域固有の財産として地域全体の振興に貢献していると考えている。ポテンシャルにおいても、まだあると思う。
- ・ 当検討会議が始まる前から市の独自政策として、子ども・高齢者の鉄道活用に対する補助制度を設け、活用施策を図っていたが、今後とも継続、特に高齢者を対象とした市民の日常利用の活性化を図っていきたいと考えている。
- ・ 今回の実証事業はスモールスタートであったものの、今回、市を跨いだ全体として鉄道の地域振興を図っていくという共通認識がより深化したのではないかと、より価値が深まったのではないかと考えているところ。
- ・ 人口減少は依然として続いている。地域内の活用はもちろんのこと、全国あるいはインバウンド需要を取り込んでいくことが、持続可能性の点において必要だと考える。

(南九州市)

- ・ 国道整備以前は、指宿枕崎線が指宿・枕崎・鹿児島方面を結ぶ主要な交通手段の一つであったと地元の高齢者からは聞いており、現在も特に3市間においては、相互に通学する生徒にとって重要な移動手段となっている。
- ・ 地方においては学校の有無が子育て世代の居住地選択に大きく影響しており、鉄道・高校・商業施設・職場などが地域の活気を構成する要素となっている。観光面においても地域に鉄道があることを活用している。
- ・ 一方で、鉄道は市民生活や風景に溶け込んでおり「あることが当たり前」となっていると考え。車社会の進展により鉄道の利用者が減少する中、鉄道に一度も乗ったことがない世代も一定程度存在し、鉄道の価値やありがたさを実感する機会が減っているのではないかと。
- ・ シビックプライドの観点が重要であり、鉄道がもたらす豊かさ、車窓風景、駅周辺での新たな発見など、利用を通じて感じられる価値に着

目すべきかと考える。

- ・ 観光客目線だけでなく、市民の日常利用の中で鉄道の意味や魅力を再発見してもらう取組が必要であり、今後は、人・もの・ことといった要素を含め、鉄道の価値を多面的に評価していく必要があると考える。

(鹿児島県)

- ・ 次年度に取り組む事項として、年度当初からすぐに進める必要がある事業については、この場で合意形成させていただきたい。
- ・ 事務局として具体的にイメージしているのは2点あり、現在御協力いただいている EY 社との調査事業の継続、そして定期的に取り組んでいる指宿以南の拡大を念頭に置いている貨客混載について。この2点は継続性を保つ観点から、4月からやっていかなければと考えるがいかがか。

(南薩地域振興局)

- ・ 両事業とも継続性の観点から賛成。貨客混載については終点の枕崎駅、また指宿・枕崎間の途中駅からも実施できれば良いと思う。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・ 発着地によって列車の車種・運行体系がそれぞれ変わってくる。お客さまも同乗していることから、何処に荷物を置くのかなど、運用方法をそれぞれ整理することが課題。当社としても、範囲拡大を目指して取り組んでいるものの、安全性への懸念があるので現在調整中。4月から早急に拡大できるかは調整次第のため、運用上の課題があることを御承知いただきたい。当社としても、課題解決に向けてしっかりと取り組んでいく。

(鹿児島県)

- ・ 課題共有いただき感謝。合意としてよろしいか。

～関係者合意～

(鹿児島県)

- ・ EY 社から、今年度の総括や次年度の取組について御意見をいただきたい。

(EYSC)

- ・ 今年度内に、実施までに至らなかった実証事業内容もあり、「実証事業を通じた地域人材の育成・発掘」、「外部人材の取り込み」等については、今年度のスモールスタートでの実施では、カバーしきれなかった事項かと考える。
- ・ 実施できた実証事業の実施・関係者調整の点については、事務局と九州旅客鉄道株式会社の負担が大きく、全体のマネジメントの視点が今年度十分とは言えなかったかと考える。関係団体での役割が曖昧であったこと、体制構築が不足だったことが反省点かと思われる。
- ・ 人材、という観点では、外部から地域に結び付ける取り込みが十分ではなかったと思う。
- ・ このような反省から、アイデアの質を高めることを目的として、コミュニケーションの範囲を広げる必要があると考えており、具体的には地域外からのアイデアの公募や、行政内での他部署との連携を進めていくことが必要なのではないかと考える。
- ・ また、関係者での役割分担の設定や、時間軸を揃えて複数の施策を、一度に実施するなど、地域へのインパクトが大きくなるやり方も模索する必要があると考える。
- ・ この際には、キーマンとなる民間人材を巻き込みながら、体勢を構築していくべきかと考える。
- ・ アイデアの公募については、整理した価値のパラメータへ反映できるよう、公募方法を工夫し、外部からの人を巻き込む観点から打ち出していくことが必要と考える。

(鹿児島県)

- ・ 事務局主導で進める形となり、地域や関係者を十分に巻き込めなかったことは事務局として反省。九州旅客鉄道株式会社においても、会社としても初めて実施する内容も多く、他部署との調整が必要であった。このようなことが重なり、至らぬ点が多かったと思う。
- ・ 沿線3市おかれても、自発的な創意工夫・地域の取組みができていなかったと思う。御提案についてそれぞれ実施できる体制ができればと考える。
- ・ 良い点は磨き上げ、改善が必要な点は工夫・追加しながら、関係者とともに推進していきたい。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・ スケジュールについて、今年度の時間軸の反省を踏まえ、早く実施できるよう、会議後に準備に取りかかりたいと考える。

#### (指宿市)

- ・ 冒頭で申し上げた財政的・継続性の観点もあるが、やはり沿線3市の市民が一体となり、「何故この取組をやっているのか」という思いを共有しながら、同じベクトルで進めていくことが、最も大切だと念頭に置かせていただき、御提案させていただく。
- ・ 人口減少が進む中、定住人口だけでなく「関係人口」という別の視点を持つことが必要であると考え。
- ・ 令和9年度に実装予定のふるさと住民登録制度は、ベーシック登録とプレミアム登録の仕組みがあり、特にプレミアム登録は地域の担い手となる層を取り込める制度であると認識している。プレミアム登録は、最大3自治体まで可能である点は、枕崎市・南九州市・指宿市としての当会議での親和性が高い制度であると考え。
- ・ 他自治体では関係人口創出の取組が進んでおり、シニア世代・子育て世代などターゲット層をそれぞれ定め、空き家活用などの取組がそれぞれ行われている。指宿枕崎線に限らず、このような関係人口の創出は自治体として今後取り組まなければならないと思う。
- ・ 仮説として、指宿枕崎線に関心を持つ鉄道ファンや郷土愛を持つ層は、関係人口になり得る潜在層であり、沿線自治体への経済・財政波及効果を及ぼし、指宿枕崎線の持続可能な運営に寄与するのではないかと思う。
- ・ 関係人口が可視化されることで、国の財政措置や支援制度との連動、さらにはふるさと納税の増加といった財政的波及効果も期待できるのではないか。
- ・ ローカル線の関係人口というのは、積極的なPR・掘り起こしが必要だと思うが、他方で沿線自治体の住民の方々も良好な関係を構築する必要がある。印象深い経験を地域が提供することが、関係人口の創出には重要。実証事業の終了後も、関係人口施策は国の重要施策であることから、自治体として継続的に取り組む価値があると考え。
- ・ 繰り返しになるが、沿線の住民の方々を同じベクトルにするためには、具体的な数値目標を設定すると、一体感を持って取り組むことができるのではないだろうか。

#### (鹿児島県)

- ・ EY社からのアイデア募集と関係人口の創出については、外部人材の取

り込みという観点から共通する部分が多くあると思う。

(枕崎市)

- ・ 当市としての独自の取組と、実証事業で連携できるものができればありがたい。
- ・ 関係人口の創出について素晴らしい提案だと思う。南端の枕崎を起点に「人生の新たな門出」をテーマとしたツアーを造成し、指宿の宿泊・温泉資源を活用した滞在型プログラムとして沿線各エリアを巡るストーリー性ある体験を提供するなど、参加者の心に長期的に残る価値を創出し、将来的な関係人口の継続や再訪につなげられるのではないかと考える。

(南九州市)

- ・ 市としては総務省のふるさと未来カレッジモデル実証事業に取り組んでみようと考えている。
- ・ 指宿市の関係人口については、ふるさと納税のクラウドファンディングなど、3市協働での財政施策などのやり方も将来的にできるのではないかと思った。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・ 来年度の実証事業に向けて、繰り返しながら、協力してしっかりと取り組ませていただきたい。
- ・ ローカル線の課題を切り口に、鉄道に特化したことに限らない「地域の将来のあり方」について、関係者が連携して取り組もうとしており、今後のローカル線問題におけるロールモデルになる地域になると思う。

(神田教授)

- ・ 今年度の成果を総括すると、ともに議論して実証し、その振り返りをした上で、沿線市から事業の提案が出てきたことが大きな成果。
- ・ 来年度には、地域の将来像という視点からの議論に移行していくと思われるが、実証事業を行いつつ、各組織から見た地域のあり方について一度立ち止まって確認しながら、予算や人の確保についても知恵の出し合いをしていけたらいいと思っている。

以上